

KOBE CITY MEDICAL CENTER GENERAL HOSPITAL

神戸市立医療センター中央市民病院
病院長

木原 康樹

Kihara Yasuki



神戸市立医療センター中央市民病院は、令和6年3月1日に開設以来、100年を迎えました。

第16代病院長としてその節目に立つことは、この身に余る栄誉であります。

当院の前身である神戸診療所は、神戸市による起債で大正13年長田区三番町に開設されました。開業医に掛かりづらい一般市民を対象として、チフス・赤痢などの急性感染症や外傷、出産、眼科耳鼻科疾患、口腔衛生に対応し、総勢103名の職員で多い日には900名もの患者を診療したとあります。当時の神戸市は、急速な都市化と人口流入が続いており、地域衛生の維持は喫緊の課題でありました。社会福祉行政の切り札としての病院開設とその実施形態としての不休の診療活動は、神戸市民の揺るぎない支援を得ることで、今日に至る私たちの根幹になったと云えます。

昭和13年の阪神大水害、昭和20年神戸大空襲被災と戦後復興、昭和28年布引地区への移転と神戸市立中央市民病院の確立、昭和36年竣工に

ともなう医療センター構想の展開と慢性疾患・難病医療、昭和40年から先駆的に整備された救急診療体制、昭和56年の新興地ポートアイランドへの移転と高度急性期医療体制の深化、平成7年阪神・淡路大震災被災、平成23年の第二期移転、最近においては令和2年からの新型コロナウイルス感染症パンデミックへの対応など、私たちの病院史を紐解くと、その100年のどこにも平穏な時代は無かったことに気づかされます。

その中で、安息の時を惜しんで患者の診療看護に励み、同時に時代を先駆ける医療体制の開発に邁進してきた、先輩医療者に深い敬意を払わずにはおれません。更には、必要を理解し、巨費を投じてそれを支えた神戸市関係諸氏の英断にも想いを馳せます。

100年の節目において温故知新の精神に立ち、次の200年に向かう道行を宣言します。

ここに紡ぐ記念誌がこれからの道程を正しく示す礎となることを祈念してやみません。

神戸市立医療センター 中央市民病院 100TH ANNIVERSARY



基本理念

神戸市立医療センター中央市民病院は、
神戸市の基幹病院として、
市民の生命と健康を守るため、
患者中心の質の高い医療を
安全に提供する。

病院概要



名称 ■ 地方独立行政法人神戸市民病院機構
神戸市立医療センター中央市民病院
所在地 ■ 〒650-0047
神戸市中央区港島南町二丁目1番地の1
代表電話 ■ 078-302-4321
病院長 ■ 木原康樹
病床数 ■ 768床
(一般750床、感染10床(一種2、二種8)、
精神科身体合併8床)
URL ■ <https://chuo.kcho.jp/>

診療科 ■ 循環器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科
脳神経内科、消化器内科、呼吸器内科
血液内科、腫瘍内科、膠原病・リウマチ内科
緩和ケア内科、感染症科、精神・神経科
小児科・新生児科、皮膚科、外科・移植外科
乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科
脳神経外科、整形外科、形成外科、産婦人科
泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科
麻酔科、歯科・歯科口腔外科、病理診断科
放射線診断科、放射線治療科
リハビリテーション科、救急科、総合内科
計34科



救急医療の 充実

当院は、365日24時間休むことなく救急患者さんを受け入れています。厚生労働省救命救急センター評価(平成26年～令和5年)において10年連続で全国1位を獲得しています。



救命救急センター評価10年連続日本一ポスター



高度医療の 提供

当院は、高度な検査機器はもちろん、手術やリハビリにいたるまで、最先端の技術を駆使した医療を行っています。

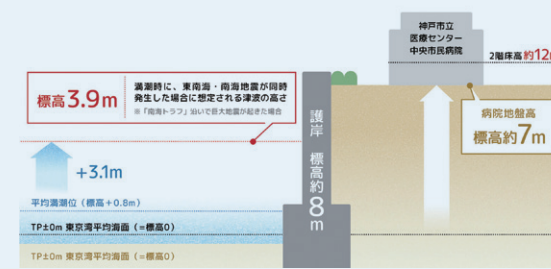


医療現場の様子



災害に強い 病院

当院は、ポートアイランドに位置しますが、阪神・淡路大震災で得た教訓をもとに、免震構造を導入した設計となっており、津波対策にも力を入れています。



当院と海の高差



患者さんに やさしい 医療の提供

当院は、入院前の準備説明や病状説明にも力を入れています。小児病棟のプレイルームでは、小児患者さんやきょうだいの声が響きわたります。

入院前準備センター・
病状説明外来入口

小児病棟のプレイルーム

当院には地域を支える8つの特徴があり、そのうち4つを紹介しております。詳しくはホームページをご覧ください。

市立神戸診療所として開設



布引(生田区加納町)へ移転



ポートアイランドへ移転しさらに充実



現在の当院



神戸市立医療センター中央市民病院の100年

